

これで節約
施設園芸
省工不対策

施設園芸の中で、大量の重油を使う温室メロン作りで、「脱重油」の動きが出始めた。二酸化炭素(CO₂)を多く排出する重油に替わり、国産の木くずなど未利用資源を原料とした木質ペレットを燃料に使う。価格変動が大きい重油に左右されない経営を目指すほか、同ペレット活用の特徴、環境に優しいメロン作りを通じ有利販売するなど、環境保全をキーワードにした新たな展開が始まっている。

木質ペレット

メロン(静岡)

エコ強み 顧客獲得

地元の原料 活用めざす

全国のアールスメロン産地をリードする静岡県温室農協。管内で2007年に1戸、08年に5戸の計6戸が、木質ペレットを燃料にした温水式

ペレットボイラー(丸文製作所・浜松市)を導入した。重油価格が1㍊60円程度に落ち着いた09年冬春期のメリットは小さかつ

たが、1㍊120円を超えた08年冬春期の燃料代は重油式に比べ半減した。重油価格は今夏から再び上昇傾向にあり「温室メロン産地の維持・発

展で、燃料問題は避けられない。燃料で一喜一憂しない経営にするためペレットボイラーを取り入れた」。静岡県袋井市でメロン16㍊を経営、07年に地域で最初にペレットボイラーを導入した永田盛通さん(30)は振り

返る。ペレットボイラーは重油式に比べ割高だが、環境保全につながる暖房機のため、各農家は国などが購入費の一部を助成する事業を活用し導入した。

ペレット調達にも工夫して安価に抑えている。九州市場にメロンを出荷

した帰り道に、ペレット産地の岡山県でペレットを積み込み、空荷をなくす仕組みも設けている。現在、浜松市が県内の森林組合と協力して木質ペレットの製造施設の建設を検討する。永田さんは「地元で木質ペレットを製造することができれば、より安価に確保できる上、燃料の地産地消が可能だ。エネルギー確保の心配はなくなる」と期待する。



木質ペレットボイラーを導入する永田さん(静岡県袋井市で)

◆
◆

◆
◆

◆
◆

◆
◆

◆
◆

◆
◆

◆
◆

◆
◆

◆
◆

◆
◆

◆
◆

る。木質ペレットは、CO₂の排出が少ない木が原料のため、環境に優しい。そんな環境に優しいメロン作りに浜松市の高級果実専門店「フルーツ正明堂」が注目。同店は市場を通じ木質ペレットで栽培したメロンを仕入れ、「エコメロン」(商標登録申請中)として今年3月から、店舗やインターネットで販売している。永田さんは「環境に優しい取り組みが青果店から評価され、特定の顧客ができたことはいずれも喜ぶ。産業界からも注目を集める。ペレットボイラーを使う大半のメロン農家で「遠州木質燃料利用組合」を結成した。組合は「世界にもやってくるのではないか」と将来を見通す。